



河北区ふれあいサロン「陽だまり」オープン (平成27年7月15日 河北学習等供用施設)

CONTENTS

- ② ★災害時の介護と避難者支援
- ④ ★被災地に学ぶ地域コミュニティの再生
- ⑤ ★大口町の地域コミュニティのかたち
- ⑥ ★赤い羽根共同募金
- ⑦ ★第67回赤い羽根協賛 児童生徒作品コンクール優秀作品
- ⑧ ★平成26年度社協事業報告・決算報告
- ⑩ ★大口子育て情報 ギゅっと
- ⑪ ★介護豆知識
- ⑫ ★ボランティア情報局
- ⑭ ★ボランティア養成講座・親の会講演会
- ⑮ ★夏休み親子福祉教室 ★楽しい遊びの広場
- ⑯ ★社協からのお知らせ

社会福祉法人

大口町社会福祉協議会

事務局

月～金(土日祝・年末年始休) 8:30～17:15
電話 (0587)94-0060 FAX(0587)94-0059
〒480-0126 大口町伝右一丁目35番地
大口町健康文化センター(ほほえみプラザ)2階

ホームページ

<http://www.oguchi-shakyo.or.jp>

Eメール

chiikifukushi@oguchi-shakyo.or.jp





遠野市社会福祉協議会
事務局長 佐々木 隆一氏



ふれあいホーム薬研淵
所長 多田 秀子氏



ヘルパーステーション薬研淵
所長 林崎 美緒氏

東日本大震災直後から復興期まで 災害時の介護と避難者支援

災害時、自宅で介護が必要な人は、どうすればよいのでしょうか。また避難先では、どのような支援が受けられるのでしょうか。震災直後から復興期まで、在宅の要介護者や避難者の支援を行ってきた社協。その経験を学ぶため、7月11日、大口町社協職員が、遠野市社協、金石市社協、大槌町社協を訪れました。

初動、緊急期の対応

柳田国男の『遠野物語』で有名な岩手県遠野市「ザシキワラシヤカッパ」の伝説が息づく静かな山あいの町は、平成23年3月11日午後2時46分、震度5強の長く激しい揺れに見舞われました。

震災当日、遠野市内は電気・水道・電話等のライフラインがストップ。

遠野市総合福祉センターは地域住民の避難所として開放され、遠野市社協は行政等と連携し、避難者への炊き出しを行いました。

社協が経営する高齢者のデイサービス「ふれあいホーム薬研淵」では、ひとり暮らしや介護が必要で公民館への避難が困難な高齢者等の宿泊先が必要となりました。しか

市内の入所施設は入所者の対応で精一杯。そこで、社協「デイサービス」を緊急の福祉避難所として開放し、隣の金石市の他施設利用者も受け入れる等、職員が交代で宿泊しながら、24時間体制の臨時対応を16日間続けました。

ケアマネジャーやヘルパー、看護師は、ひとり暮らしと高齢者世帯の利用者を中心に、震災直後から余震のたび、安否確認や避難所への誘導に駆けずり回りました。吸引器やエアマット等の医療器具を使用する利用者宅には、発電機を持って走りました。

「その間、電気がなく、パソコンやプ

リントから利用者情報を出力できず、非常に困った。」と職員は口を揃えます。

震災翌日、電気は復旧しましたが「デイサービスが閉所となり、自宅で困っている利用者へヘルパーが訪問入浴を行ったり、デイサービス職員が利用者宅へ訪問して介護したり、また金石市社協へ移動入浴車を貸出す等、責任者会議を毎日行いながら、臨時対応を行いました。

応急期から復興期へ

同じころ、津波で社協建物が流出した大槌町社協では、役員数名が犠牲となり、家族の安否もわからない中、職員が避難先の施設で懸命に避難者の介護にあたっていました。

金石市社協では、自宅の生活では危ない高齢者等を公共施設の100畳間に避難させ、他の介護事業所と連携して介護にあたる「命のネットワーク」と名付けた支援を行っていました。

遠野市は、県内陸部に位置することから、沿岸被災地の後方支援基地となり、自衛隊が来たため、早期に電気が復旧していました。大きな被災を免れた遠野市社協は、震災の数日後から、隣町の大槌町、金石市、陸前高田市等の支援に乗り出します。

KEYWORD
災害時相互応援協定
遠野市社協と大口町社協が平成26年5月24日締結。災害時に被災した社協へ応援に駆けつける内容。

災害支援訓練
遠野市社協と大口町社協が、日頃から連携と相互交流をはかる目的で、年1回どちらかの地域での災害を想定して実施する合同訓練。災害時の緊急対応や情報共有、支援のあり方等を学ぶ。

データ(平成27年4月1日現在)
岩手県遠野市
人口 29,150人(うち65歳以上10,381人、高齢化率35.8%)
遠野市社会福祉協議会の組織
地域福祉課、在宅福祉課(ケアマネジャー、ヘルパー、デイサービス、訪問看護、地域活動支援センター、ショートステイ(平成26年度~))
愛知県丹羽郡大口町
人口 23,260人(うち65歳以上5,020人、高齢化率21.9%)
大口町社会福祉協議会の組織
地域福祉部門、在宅福祉部門(ケアマネジャー、ヘルパー、デイサービス)



①町のワゴン車を借用して岩手県へ出発。
お見送りいただく大口町健康福祉部職員の皆様
②遠野市健康福祉部福祉課職員の皆様

3月13日から、遠野市社協は行政やボランティアと連携し、1カ月で14万個のおにぎりの炊き出しを行い、支援物資とともに、被災地の避難所へ届けました。

また、災害ボランティアセンターを設置し、NPOや団体と連携して『遠野まごころネット』を設立。毎日バス20台を運行し、全国から集まったボランティアを沿岸被災地へ派遣する活動を始めました。被災地社協の災害ボランティアセンターとも連携し、瓦礫撤去や家屋整理のほか、避難所での物資配布や炊き出し、足湯、家事手伝い等のボランティア活動を支援しました。大口絆つなぐネットが活動したのも、このころです。

震災から半年が経過し、仮設住宅の建設が終了。避難者が移転し、岩手県内の避難所はすべて閉鎖されました。

復興期の課題

平成23年7月、遠野市内に応急仮設住宅「希望の郷」が完成し、沿岸部から避難者の入居が始まりました。仮設住宅内にはサポートセンターが設置され、遠野市社協の生活支援相談員6名が現在も活動しています。

相談員は、仮設住宅を含む遠野市内への避難者世帯へ戸別訪問を行い、心身や生活状況の把握だけでなく、困りごとの相談相手にもなります。また地元自治会やボランティアの協力を得て、仮設住宅内外でのイベントや交流事業等も行い、避難者を孤立させないよう仮設コミュニティの活動を支援してきました。

しかし、若い世代が次々と出ていく中、応急仮設住宅に残っているのは22世帯、体力が低下した独居の高齢女性が中心です。

希望の郷「絆」は、応急仮設住宅としての供与期間が終了し、今後は市営住宅として活用が検討されていますが、避難者がいつまで住み続けられるかは未定。不安を抱えた避難者やどうサポートするか、常に相談員たちの課題です。

震災の教えを広く知って

震災直後から復興期までの経験を通して、遠野市社協が私たちに教えてくれたのは、日頃の備えとつながりの大切さ。

既存の防災マニュアルが役に立たず、現場の急遽の判断で行動する中であつても、日頃の備えが役立つ場面は多々あります。

たとえば、災害時、地域の組織や施設が、その機能を活かして何ができるか、ライフラインがストップしたときのことを想定し訓練しておくこと。災害用備品や備蓄を計画的に整備し、車のガソリン補給は定期的に行うこと。

介護事業所では、安否確認が必要ひとり暮らしや高齢者世帯の状況を把握、情報共有すること。遠野市社協では、紙で連絡先の一覧表を作り、事業所どうしの相互研修も行っています。

そして何より大切なのは、身近な地域での介護や避難者支援や広域的な後方支援のすべてにおいて生きる、人と人とのつながり。



炊出し用食材等のご寄贈ありがとうございました
福玉精製倉庫株式会社様 きしめん 20キロ
株式会社東海理化様 丼カップ 400個

香露きしめんの炊き出し 遠野市綾織まつりで

7月12日、遠野市綾織地区センターで開催された「綾織まつり」に大口町社協職員8名が参加し、遠野市社協と共同で炊き出しを行いました。

まつり会場に集まった地域住民を避難者と想定し、愛知のPRも兼ねて、名古屋名物の香露(ころ)きしめん300食を調理し、振る舞いました。

こうした社協の炊き出しは、突然の災害時にも対応できるよう、日頃から訓練を行っているものです。次回は、10月31日、大口町ふれあいまつりでボランティアと協力して行う予定です。



東北は梅雨なのに晴れて暑い日でした。遠野のわらすっこ(ちびっこ)も、冷たいきしめんがおいしく入り!



(左)遠野市の応急仮設住宅「希望の郷」内に設置されたサポートセンター
(右)生活支援相談員 谷地 信弥氏、湯本 一土氏の説明を受ける大口町社協職員

被災地に学ぶ地域コミュニティの再生

(地域内の住民どうしのつながり)

釜石市・大槌町社協職員の話

東日本大震災津波は、かつてない広大なエリアで数多くの尊い生命や貴重な財産を奪い去りました。浸水区域の住民は、終の住家を得るまでの間、複数回の移転を余儀なくされ、その都度孤立のリスクが高まります。震災後、住民は仮設住宅等で散りに避難生活を送ることとなり、地縁的なつながりが途絶えがちになりました。その中で、仮設住宅のさまざまな生活問題(ゴミ出し・駐車場・孤立等)を解決するため、仮設入居者がついで自治会を作り、ルールを作り、集う場を作り...という仮設住宅のコミュニティ形成を社協

は支援しました。

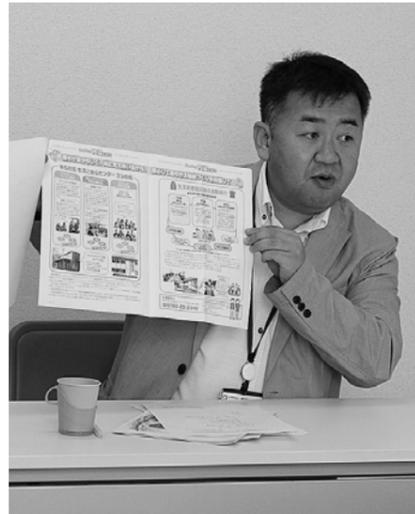
しかし、震災から4年が経過した今、災害公営住宅への入居内陸部への転居、自力による自宅再建・アパート入居等により、自立して仮設住宅から出ていく人が増え、再び住民の心はバラバラになってきています。この状況は、仮設自治会の崩壊、仮設入居者特に、自立が難しい高齢者等の取り残されたという孤立感につながっています。また「失った生活を取り戻したい、〇〇がしたい」と夢を描いて災害公営住宅へ移った住民の中にも、人とのつながりができていない新しい環境で、特に一年目、地域に溶け込めず孤立し落ち込んでしまう、という人も少な

くありません。

こうしたためまぐるしい変化の中で、社協は柔軟に支援の方法を変えていかなければなりません。生活支援相談員は、戸別訪問をして被災者の悲嘆を聴き、悩みや生活課題を発見しつつ、孤立させないように見守る活動を粘り強く続けています。その一方で、地域コミュニティ再生として、地域の絆を醸成するきつかけとなる集う場や交流会をしかけたり、ボランティアの力を借りてお茶(お茶飲み)サロンを開催したりして、新旧住民どうしの語り合いと縁づくり、支え合いの仕組みづくりを支援しています。

地域経済の低迷と少子高齢化が到来しており、住民や行政等とともに、社協もその課題に対応してきました。たとえば、社協は震災前から地域でお茶(お茶飲み)を支援していたため、バラバラになった住民が元はこの人が把握しており、集う場づくりの話もしやすい立場にありました。また最近、集う場としての炊出しの重要性も再認識し行っており、日頃の「社協らしい」経験が、震災後の復興活動と地域福祉においても活かされています。

誰も孤立させない縁つなぎと地域コミュニティの再生は、これからは本町の始まり。被災地に、明日への胎動が、聞こえますか。



釜石市社会福祉協議会 地域福祉課長 菊池 亮氏

「震災直後から現在までの復興活動は、もうひとつ社協を作るくらいの大きな取り組みだった。『平時が大事』は本当のこと。マニュアルの前提が崩れる時に、柔軟に対応できる社協でありたい。」



釜石市社会福祉協議会 主任生活支援相談員 土橋 真由美氏



町長を含む40名の職員が犠牲となった旧大槌町役場は、震災遺構として一部保存され、慰霊の場となっている



(左から)大槌町社会福祉協議会 事務局長 赤崎 仁一氏、生活支援相談員 白澤 和賀子氏・石川 雄康氏、ボランティアセンター 渡辺 賢也氏



町内で6か所目のふれあいサロンがオープン 河北区ふれあいサロン 陽だまり

平成27年10月～12月開催予定

場所	月日	10/14	11/18	12/16
河北学習等 供用施設		●	●	
二ツ屋学習等 共同利用施設				●

開催日: 毎月第3水曜日 9:30～11:30
場 所: 10月・11月は河北学供
12月は二ツ屋学共
対 象: 河北区住民ならどなたでも

猛暑日となった7月15日、河北学供で、ふれあいサロン「陽だまり」がオープンしました。当日は、88名の河北区住民の方が参加。河北学供から離れた地域からも多数参加があり、またグラウンドゴルフで汗を流した元気高齢者の皆様も駆けつけてくださいました。1階会場はすぐに満席となり、急遽和室も開放。お馴染みのご近所さんとの井戸端会議だけでなく、久しぶりの再会を喜ぶ住民どうしの歓声も混じり合い、大変な賑わいに包まれました。オープニング記念の催しでは、ボランティアがハンドベルの演奏や寸劇を披露し、参加された皆様の笑顔が弾けるサロンの会場となりました。

住民自ら参加していく

河北区では、区長さん・地区役員さんの「河北区にもサロンを」という熱い思いが住民の皆様を動かしました。有志スタッフが丁寧な話し合いを重ね、社協も加わり、皆でアイデアを出し合いながら運営しています。また、河北区の中には4つの地域(上郷、愛松、仲沖、二ツ屋)があり、それぞれの地域が少し離れていることから、仲沖集会所と二ツ屋学共に「移動型サロン」を計画。区長の山口氏は、初年度は、離れた地域で年1回ずつ試験的にサロンを開催し、「お年寄りが歩いて行けるサロン」を模索していきたい。」と話しています。



大町町の地域コミュニティのかたち

地区・サロン名	場 所	開催日
外坪区ほっこり	外坪学習等 共同利用施設	第2・第4水曜日 9:00～12:00
大屋敷新田地区 いづく茶屋	新田地区集会所	第1土曜日 9:30～11:30
上小萩島地区 茶々会	萩島集会所	第2土曜日 13:30～16:00
さつきヶ丘区 サロンさつき	さつきヶ丘 防災センター	毎週水曜日 10:00～16:00
さつきヶ丘区 元気会	さつきヶ丘 防災センター	第1金曜日・第3火曜日 13:00～15:30



かつて日常的にあった、地域住民が気軽に集う場。今、私たちの町でも、誰も孤立させない縁づくりと地域コミュニティの再生が、始まっています。

ふれあいサロンに関するお問い合わせは、社会福祉協議会までお気軽にどうぞ 94-0060

第67回 赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール 優秀作品



大口中2年 稲波 琴音



大口中3年 岩田 実希



大口南小4年 伊藤 有季也



大口北小6年 下川床 凌空



大口西小3年 新谷 侑子

※大口町共同募金委員会が第1次審査で選出した優秀作品6点は、愛知県共同募金会へ推薦作品として提出されました。



大口中2年 舟橋 亜梨沙

多数のご応募ありがとうございました!
 応募総数 ポスター275点 書道 416点
 学校推薦作品の展示予定
 ①健康文化センター1階 9/25(金)~10/8(木)
 ②アピタ大口店2階 10/9(金)~10/22(木)
 ③健康文化センター2階 10/31(土)



じぶんの町を良くするしくみ。
赤い羽根共同募金

大口町共同募金委員会
 会長 水野 多三男
 大口町共同募金委員会 事務局
 大口町伝右一丁目35番地
 (大口町社会福祉協議会内)
 TEL: 94-0060
 FAX: 94-0059

平成26年度の共同募金運動について、多くの町民の皆様のご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。
 今年度も、町民自らの行動を応援する「じぶんの町を良くするしくみ」をテーマに全国一斉に運動が始まります。
 共同募金の助成は、高齢者サロンの運営や草の根のボランティア活動の費用から、障がい者作業所の車の整備・社会福祉施設の改修まで、さまざまな民間社会福祉活動を支援しています。
 町民の皆さまをはじめ、町内企業様、協力団体様により一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

共同募金運動
 10月1日から12月31日まで

戸別募金: 区長さんを通じて、各ご家庭に募金をお願いする方法

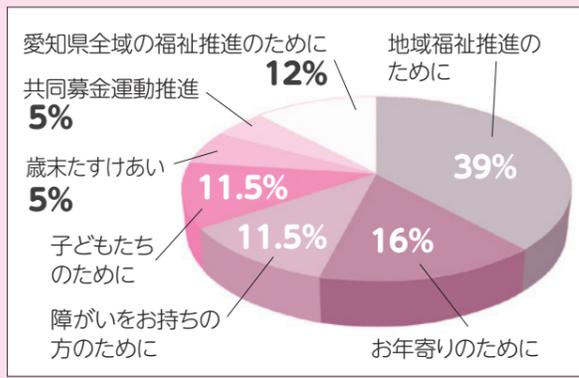
街頭募金: 募金機能付き自動販売機で商品を購入すると、一部が募金になる方法

職域・法人募金: 企業、団体、官公庁などの職場で、従業員の方に募金をお願いする方法

自動販売機での募金: 募金機能付き自動販売機で商品を購入すると、一部が募金になる方法

共同募金配分金事業 (一部抜粋)

地域福祉推進のために ひとり親家庭夏休み日帰り旅行、ボランティア養成講座、ふれあいまつり、ふれあいサロン事業など	1,513,388円	子どもたちのために 福祉実践教室、赤ちゃん訪問プレゼント事業(民生委員児童委員ドアノッキング事業への協力)など	330,000円
おとしよりのために 敬老事業、おせち料理配布事業	600,000円	歳末たすけあいに 車いす、ふれあいサロンなどの備品整備	149,000円
障がいをお持ちの方のために 重度身体障がい者日帰り旅行、障がい者スポーツ大会、障がい者団体の活動助成など	360,000円	共同募金運動推進のために 愛知県全域の福祉推進のために	154,000円 431,000円



平成26年度 共同募金 実績
3,537,388円
 内訳 赤い羽根共同募金 3,388,388円
 歳末たすけあい募金 149,000円
 平成26年度にお寄せいただいた募金が、平成27年度の福祉事業に使われます。

赤い羽根共同募金のつかいみち
88% 大口町のために
 大口社協が配分を受け、町内で実施する福祉事業に役立てられます
12% 愛知県のために
 広域の社会福祉施設や車両の整備、団体の事業に役立てられます

平成27年度 共同募金 目標額
3,600,000円
 内訳 赤い羽根共同募金 3,440,000円
 歳末たすけあい募金 160,000円
 赤い羽根共同募金は、あらかじめ事業の必要性や緊急性を考え、寄付者の方々に納得いただけるような配分計画を立て、その計画額を目標額として行っている募金です。

平成26年度 社協事業報告(抜粋)

去る平成27年5月18日(月)に社会福祉協議会理事会、5月25日(月)に社会福祉協議会評議員会が開催され、平成26年度の事業報告と決算報告が承認されました。

なお、平成26年度の事業報告、財産目録、資金収支計算書、貸借対照表は、本会公式ホームページで公開しております。窓口で閲覧希望の方は、本会までお申下下さい。

理事会・評議員会の開催

- 理事会
 - 第1回 平成26年 5月16日開催
 - 第2回 7月29日開催
 - 第3回 10月24日開催
 - 第4回 11月18日開催
 - 第5回 平成27年 1月27日開催
 - 第6回 3月17日開催
- 評議員会
 - 第1回 平成26年 5月27日開催
 - 第2回 12月27日開催
 - 第2回 平成27年 3月27日開催

社協会員募集

- 一般・賛助会員 5,155件 (加入率66%)
- 法人会員 73件
- 会費合計金額 3,155,500円

広報・啓発活動

- 「おおぐち社協だより」を4月、7月、10月、1月の計4回発行
- ホームページを更新し、見やすい社協をこころがけ事業を公表、事業の利用及び参加・協力の働きかけを実施
- 大口町ふれあいまつりに「ふくしわくわくランド」を開催

ボランティアセンター

- 夏休みボランティア出前講座の実施 (参加人数 合計131名)

場所	月日	内容
西児童センター	8月21日	災害支援ボランティア
北児童センター	8月22日	おもちゃ図書館さくら
南児童センター	8月28日	手話サークルコスモス

- ボランティア養成講座の実施
 - ①傾聴ボランティア養成講座(全3回、参加延人数17名)
 - ②ふれあいサロン運転ボランティア養成講座(1回、参加延人数9名)
 - ③回想法基礎研修(1回、参加人数20名)
- ボランティア研修会の実施
大口町ボランティア連絡協議会と合同で、東海学園大学三好キャンパスで健康と運動に関する研修会を開催
平成26年9月19日(参加者数31名)
- 社協ボランティアセンター登録
団体数33団体(延429名)
- ボランティア保険加入及び事故時等の事務
ボランティア活動保険加入者数
団体 58団体(1,036名) 個人 14名
総加入者数 1,050名
(男性459名 女性451名)
事故件数 2件
- ボランティア派遣を調整
相談 20件、派遣 8件
- 企業へボランティアを派遣 1件

児童福祉

- 町内小中学校と協働で、福祉教室(福祉実践教室・総合学習)を実施し、福祉教育を推進
(参加児童・生徒数 延1,031名)
- 子育て支援サークルの活動支援
- おもちゃ病院「おおぐち」の支援
- 青少年等ボランティア福祉体験学習事業の実施協力
(大口中学校JVC参加生徒数 延87名)
- 民生委員児童委員が行うドアノッキング事業の実施協力し、赤ちゃん訪問時にお祝い品をプレゼント
(5ヶ月訪問 240名、1歳訪問 216名)
- 夏休み親子福祉教室(施設見学バスツアー)を開催(参加人数19名)

高齢者福祉

- 単身・高齢者世帯に対し大口町水彩画クラブ、民生委員の協力により、おせち料理配布事業を実施
平成26年12月30日
(配布数 111世帯)
- 「敬老の日」に80歳以上の在宅高齢者及び入所施設利用者へお祝い品の贈呈
平成26年9月12日
(配布数 在宅260名、施設150名)
- 介護者向け情報冊子「介護まめ知識」を対象世帯に配布
- 地域見守り支え合いを考える会に参加し、ふれあいサロン活動を紹介

- 大口町高齢者軽度生活援助事業(ホームヘルパー)、大口町生きがい活動支援通所事業(デイサービス)、大口町はつらつ健康体操事業(いきいき教室)を受託

障がい児者福祉

- 第30回大口町障がい者スポーツ大会の実施 平成26年6月14日
(参加者数 297名)
- 重度身体障がい者日帰り旅行の実施
平成26年10月27日
(参加者数 17名)
- 大口おもちゃ図書館さくらの活動支援
- 大口町障がい者等地域生活支援事業(移動支援事業)の受託
- 精神障がい者を対象とするサロン「フリースペースれんげそう」の運営支援

母子父子福祉

- ひとり親家庭日帰り旅行の実施
平成26年11月23日
(参加数 18家族 43名)
- 母子家庭等に対する「就業相談日」を開催
- 母子寡婦福祉会の活動支援
- 小学校、中学校、高等学校等入学のひとり親家庭を対象にお祝い金を贈呈(21件)

ふれあいサロン

- サロン設立初年度の備品助成
- サロン開催実績回数(上限24回)に対し助成
- サロンに対する行事保険の加入
- サロン活動に必要な備品の貸出
- サロンのPRや広報等ちらしを作成し活動を支援
- ふれあいサロン交流会を開催
(参加人数 28名)

サロン名	参加延人数
フリースペースれんげそう	433名
傾聴サロン笑桜会	284名
子育てサロンまむ✽まむ	1,131名
外坪区ほっこり	511名
大屋敷新田地区いっぶく茶屋	542名
上小口萩島地区茶々会	141名
さつきヶ丘区サロンさつき	2,400名
さつきヶ丘区元気会	413名

福祉関係団体の育成・助成

- 大口町身体障害者福祉協会、心身障害児(者)親の会、更生保護女性会、母子寡婦福祉会、保護司会、遺族会、尾北地区聴覚障害者福祉協会、尾北精神障害者家族会、しらゆり会大口支部への助成

共同募金事業

- 町内各地区・法人のみなさまのご協力により共同募金運動を実施
 - ・赤い羽根共同募金実績額 3,388,388円
 - ・歳末たすけあい募金実績額 149,000円
- 共同募金配分金事業の推進と充実
- 募金機能付自動販売機を健康文化センター1階、軽費老人ホーム一期一会荘1階に設置
- 災害復興義援金の募集窓口を設置
- 赤い羽根共同募金パトントリーをリンナイ株式会社で実施

貸付事業

- 生活福祉資金貸付制度の窓口業務(相談件数47件)
- 町くらし資金貸付・緊急一時支援等

相談事業

- 心配ごと相談所の開設
(毎月第1・第3・第4水曜日)
(相談者数 延77名)
- 総合福祉相談の窓口常設
(相談者数6名、支援回数延239件)
- 日常生活自立支援事業の相談窓口常設
(利用契約者数 3名)

貸出事業

- わたがし機、ポップコーン機、松葉杖、福祉車両、車いす等の貸出サービス
(総貸出件数 187件)

在宅福祉サービス 3事業所の経営

- 大口社協居宅介護支援事業所
- 大口社協訪問介護事業所
- 大口社協デイサービスセンター

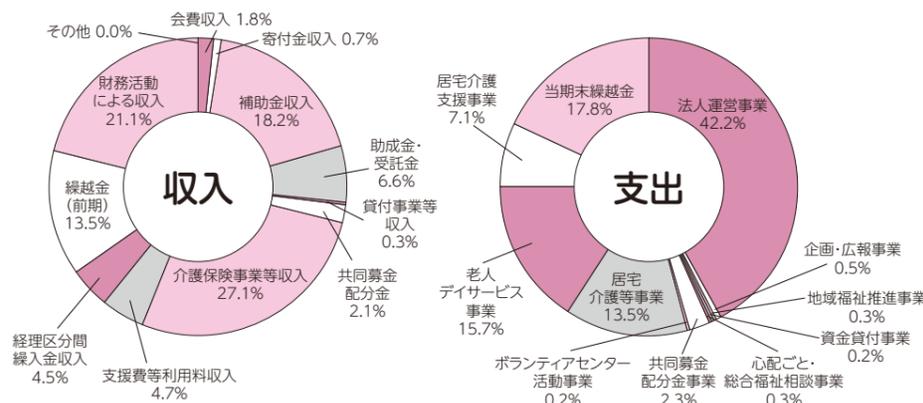
福祉関連事業

- 大口町表彰式典の開催
- 点字投票制度への協力
- 防災関連事業を町より受託し実施
 - ・5月18日 防災訓練
(ボランティアの協力で豚汁炊出)
 - ・6月29日 防災講演会
 - ・11月30日 大口町防災研修会(避難所運営ゲームHUG)
- 岩手県遠野市社会福祉協議会と「災害時相互応援協定」を締結、合同災害支援訓練を実施
- 西尾張ブロックボランティアフェスティバルの開催

平成26年度 大口町社会福祉協議会決算報告

項目	金額(単位:円)
会費収入	3,155,500
寄付金収入	1,205,189
補助金収入	31,850,000
助成金・受託金	10,481,909
貸付事業等収入	554,100
共同募金配分金	3,675,582
介護保険事業等収入	47,466,500
支援費等利用料収入	8,228,799
経理区分間繰入金収入	7,908,640
繰越金(前期)	23,739,776
財務活動による収入	37,058,140
その他	70,173
収入合計	175,394,308

項目	金額(単位:円)
法人運営事業	74,093,314
企画・広報事業	796,345
地域福祉推進事業	482,482
資金貸付事業	376,315
心配ごと・総合福祉相談事業	482,812
共同募金配分金事業	3,966,807
ボランティアセンター活動事業	420,835
居宅介護等事業	23,701,734
老人デイサービス事業	27,500,202
居宅介護支援事業	12,391,628
当期末繰越金	31,181,834
支出合計	175,394,308



社協会員加入のお礼

今年7月からの会員募集について、一般会員・賛助会員・法人会員に多くの皆様のご加入くださり誠にありがとうございました。ご協力いただいた区長・地区役員の皆様にも厚くお礼申し上げます。会費は、社協で実施する各種事業の財源として、大切に活用させていただきます。



10月号社協だよりは、家族介護者のための健康管理に役立つ運動と相談窓口等をご紹介します。

運動と言っても、どんなことをすればいいのか？ といった運動が効果的かをご紹介します、相談窓口も複数紹介いたします。

1 まずはストレッチ!

運動と言っても、激しい運動をしたら、体を痛めてしまいます。そこで、ストレッチをすることにより、腰や背中、脚の筋肉をほくすことが必要になります。

では、いつストレッチをすればいいのか？ ということですが、筋肉に張りや凝りなどの違和感を感じたときや、気分転換をしたいときに行くと良いでしょう。筋肉に違和感がない時でも、家事と家事のちょっとした合間にも行うなど、「できるときに行う」ことが大切です。

ストレッチのポイント

- 息を止めずに、ゆっくりと吐きながら伸ばしていく
- 反動・はずみはつけない
- 伸ばす筋肉を意識する
- 張りを感じるが痛みのない程度まで伸ばす（心地よい痛みであれば可）
- 20秒から30秒伸ばし続ける
- 筋肉を戻すときにはゆっくりとじわじわ戻っていることを意識する
- 1度のストレッチで1回から3回ほど伸ばす
- 週に2～3回行う



2 具体的なストレッチの紹介

どんなストレッチが効果的なのか、具体的に紹介します。

1 太ももの前側のストレッチ

2 ふくらはぎのストレッチ

3 上半身のストレッチ

4 太ももの内側のストレッチ

①②20～30秒間姿勢を維持し、左右それぞれ1～3回伸ばします

③④20～30秒間姿勢を維持し、1～3回伸ばします

イラスト出典:中央労働災害防止協会「介護業務で働く人のための腰痛予防のポイントとエクササイズ」



相談窓口のご紹介

- 大町役場 健康生きがい課 住所:〒480-0126 大町伝右一丁目35番地(ほほえみプラザ1階) 電話:(0587) 94-0051 FAX:(0587) 94-0052
- 大町地域包括支援センター 住所:〒480-0144 大町下小口七丁目21番地 電話:(0587) 94-2227 FAX:(0587) 94-2237
- 大町社会福祉協議会 住所:〒480-0126 大町伝右一丁目35番地(ほほえみプラザ2階) 電話:(0587) 94-0060 FAX:(0587) 94-0059



【編集】特定非営利活動法人「まみーぽけっと」
【HP】
<http://www.geocities.jp/mammypocket2003/index.html>

町内の託児・一時預かりの紹介です

《就学時前児童一時預かり事業》

- ☆目的 保護者の就労形態の多様化に伴う一時的な保育、保護者の傷病等による緊急時や育児疲れ解消等の私的な理由による保育に対応するため、一時預かり事業を実施し、児童福祉の増進を図ります。
- ☆対象 町内の満1歳から就学前児童(病児・病後児不可)
- ☆場所 大口中保育園
- ☆人数 1日当たり5人以内
- ☆日数 週3日程度とし、1か月につき14日まで
- ☆時間 月曜日から金曜日の午前8時30分から午後4時30分まで
- ☆料金 (表は児童1人当たり)

児童区分	利用料			給食費
	1時間当たり	4時間	8時間	
満1・2歳児	600円	2,000円	3,000円	200円
3歳児以上	500円	1,500円	2,500円	200円

☆利用日の前日1日から利用の3日前までに、申し込みをしてください。

☆申込場所 大口中保育園 95-2862

平成27年4月1日～8月19日までに利用した延べ人数は90人だった!



《大口町 すくすくサポート》

- ☆目的 『仕事と育児の両立のために』を目標に援助会員と賛助会員が助け合いながら育児の環境作りを支援する制度
- ☆援助の内容 冠婚葬祭に出席、子どもが病気の回復期等軽度の病気の場合、保育園・幼稚園・児童クラブ等の終了後、リフレッシュしたい場合などにお子さんを預かります。保育園・幼稚園・児童クラブ等まで送迎も行います。
- ☆利用時間 7:00～20:00
- ☆対象年齢 0歳から小学6年生
- ☆活動場所 原則、援助会員の自宅
- ☆会員登録 ※援助会員と依頼会員の両方を兼ねることも出来ます。
援助会員：大口町に在住し、育児のお手伝いをしたい方で、年齢60歳くらいまでの方
依頼会員：大口町に在住し、育児の手助けをして欲しい方
- ☆利用料金 7:00～8:00…700円/1時間、 8:00～18:00…600円/1時間、 18:00～20:00…700円/1時間、 土・日・祝日…終日700円/1時間
- ☆申込場所 大口北児童センター 95-7141



現在の会員登録数
援助会員 18名
依頼会員 28名

お出かけスポット

みのかも健康の森

岐阜県美濃加茂市山之上町7559 Tel0574-29-1108

施設内どんぐりパークでは、小さい子が遊べる遊具がいっぱいあります。うさぎやくじゃくにも会えますよ! 長〜いローラーすべり台や、本格的なアスレチックも楽しめます。

★入場料 無料 ★駐車場 無料 ★休園日 水曜日(休日のときは翌日)

要約筆記 スマイル大口

毎月第2月曜日午前10時から12時まで
健康文化センターボランティア室にて活動

8月21日(金)、西児童センターにて、JVCで来ていた中学生を含め30人の参加者でおこなわれました。伝言ゲームや、人の背中やOHPに文字を書いて、言葉を伝える体験をしました。「文字を書いて伝えるのが一番よかった」「近所に聞こえない人がいるけど、書いて伝えてもいいんだね」「背中に書くときはシャツのしわをのばして」と真剣な声や「ボランティアさんは、聞いたことをすらすら書くんだからすごいね。何年やってるのかな」などと1時間の中で様々なことを感じたようでした。

伝言ゲームの答えを書くんだけど、当たってるかな。



早く書きた〜い。サン
グラスは目を守るた
めにかけるんだって。
けっこう似合ってる!

すごい真剣だわ。
我がスマイルに
スカウトしたいわ…

聞いたことをそのまま
伝えるには、集中! 集中!



背中に書いて伝えるんだけど、うまく伝
わらないと、つい言葉で伝えたくなるう。

災害救援ボランティア

毎月第3土曜日午前9時30分から
健康文化センターボランティア室にて活動

8月27日(木)南児童センターにて、50人の参加者でおこなわれました。子どもたちは、ロープで身を守る方法、ケガをしたときの三角巾の使い方、いざという時にはけるスリッパの作り方、ひとりで留守番しているとき守ることなど、「防災」の幅の広さを教えてもらいました。「もやい結びができた!学校の先生に見せたい〜」「弟が生まれるんだ。三角巾のこと教えてあげよ」出前講座は、子どもたちの夏の思い出のひとこまになったようです。

誰もいないときにも「ただいま〜」
と言って家に入るんだって。



このスリッパ、新聞だよ。しかも
テープもノリも使ってない!



クルンと!

ここここを合わせ
て、神さまって言
いながらやるのよ。

そうそう、ロープを
持ったままクルンと。



編集後記 ■ 取材・作成 / 編集ボランティア OZ

「あれ?何しようとしたんだっけ?」秋の日の屋下がり、冷蔵庫の前でひとり立ち止まる。何かをしよう、立ち上がったものの、何の用事だったのか忘れてしまった。この頃、どうも物忘れが多くなったようだ。首をひねっていると、娘が言った。「お母さん、そういう時は、もう一度、元の位置に戻って、初めから同じ行動をしようと思えばいいよ」言われた通り、元いた場所から順に歩いて冷蔵庫の前まで来てみる。「あ、そうそう、これを取りに来たんだわ(笑)」もう歳かしら…いやいや、歳のせいにしてはいけません。少し散歩に出て、脳に心地よい刺激を与えなくちゃ!それでは皆さん、散歩道でお会いしましょう〜。

ボランティア情報局

夏休み中、3つのボランティアサークルによる出前講座が、各児童センターでおこなわれました。どのサークルも参加した子どもたちが自然と夢中になれるように工夫されていました。センター内では子どもたちの笑い声がたくさん響きましたが、同じくらいボランティアさんたちの笑い声も響き渡っていました。暑い夏は終わってしまいましたが、ボランティアさんたちの熱い気持ちは、秋から冬へとまだまだ続きます。

高齢者疑似体験 うさぎとかめ

奇数月第3水曜日午前9時30分から11時まで
健康文化センターボランティア室にて活動

7月31日(金)、北児童センターにて、犬山市からの参加者を含めて25名でおこなわれました。指先や手足の不自由さ、聞こえにくさ、見えにくさの体験をしました。「めんどくさいなあ」と言いながらも、手は一生懸命豆運びをする男の子。「うちのおばあちゃん、白内障なんだって。あんなふうに見えるんだ。色とかもわかりにくいんだね」「手に重りをつけたら、肩は痛くなった。だから、おじいちゃんはいつも肩が痛いつて言ってるんだ」などと、体験を通していろんなことを感じたようでした。

ゴーグルつけたまま、間違えがしを
してって言われたけど、どうしても
ゴーグルをあげて見ちゃうよ。



手袋をはめたまま、ボタンを
はずしてぬぐんだけど、
とっても時間がかかるう〜。

み〜んな
一生懸命で
かわいいねえ
(笑×笑)

私たち必死
なんですけど。

重りに手袋して、豆を
つかんでるんだよ。
上手って言われたよ。





8/6 子どもから大人まで! 施設見学バスツアー 夏休み親子福祉教室

8月6日、子ども12名を含む21名が参加し、町バスに乗って「デイサービスゆい」「ハートフル大口」「御桜乃里」「大口社協デイサービスセンター」を訪問しました。
 参加した子どもからは、「施設がこんなに明るいとは知らなかった」「お年寄りと一緒に遊べて楽しかった!」「また来年も来たい」などの感想が。大人からは、「普段見ることができない施設の様子を見学できて、期待以上だった」「とても勉強になった。もっとたくさんの方が参加すべき!」「孫とスキンシップができてよかった」などの感想がありました。



8/22 大口おもちゃ図書館さくら 楽しい遊びの広場 設立25周年記念

大口おもちゃ図書館さくら開館日 毎月第2土曜日・第3木曜日 10:00~15:00
 8月22日、健康文化センター4階ほほえみホールで、楽しい遊びの広場が開催され、60名を超える家族連れが訪れました。
 第1部は、中部大学の千田先生の指導で、新聞紙1枚でできる安全・安心で楽しいおもちゃ作り。紙ブーメランを飛ばして、子どもたちはおおはしゃぎ!第2部では、ダッシュマンに妖怪ウォッチダンスを教わり、全員で盛り上がりました。



地域の縁つなぎ・介護予防にも役立つ レクリエーションボランティア養成講座

6月25日、7月2日・9日、大口町生きがい活動支援センター等で、ボランティア養成講座を開講しました。
 講師は、レクリエーション指導の達人・林 栄五郎先生と松山 清子先生。巧みな話術で雰囲気を盛り上げながら、場の中心でレクリエーションをリードしていくポイントを受講者に伝授しました。
 講座では、リズムに合わせて手足の動きを皆で楽しむ「手足を使ってあそぶ」、紙やひも等を使って単純な手作業の速さを競う「身近な道具を使ってあそぶ」の2分野を17名全員で楽しみながら学びました。
 講座の最終回は、大口社協デイサービスセンターへの出前レクリエーションを行い、成果発表。楽しく工夫された各グループの発表に、お年寄りからは拍手喝采が送られました。
 誰もが笑って皆で元気になれるレクリエーションは、人と人との縁をつなぎ、介護予防にも役立つ技術。
 社協では、地域の居場所(ふれあいサロン)づくりとあわせて、レクリエーションを活用できるボランティアを充実していくよう、今後も養成講座を行っていく予定です。

ボランティア養成講座予告 手話を学ぼう

- 日 時 平成28年1月7日(木)スタート 毎週木曜日(全12回講座) 午前10時00分から正午
 - 場 所 健康文化センター4階 ふれあい2
 - 定 員 20名
 - 参加費 テキスト代等
 - 申込み 平成27年11月9日(月)から 窓口・電話・ファックスで受け付けます
 - 申込先 社会福祉協議会 電話 94-0060 FAX 94-0059
- ※詳細については、広報おおぐち11月号に掲載しますのであわせてご覧ください

8/23 大口町心身障害児(者)親の会主催講演会 障がいの理解と地域で生活するということ 一人ひとりの豊かな生活をめざして…

講師 社会福祉法人あいち清光会 サンプルド施設長 川崎 純夫氏

大口町に、障がいのある人が豊かに暮らせるグループホームを! そんな親たちの思いを広く知ってもらうため、心身障害児(者)親の会(以下親の会)が、健康文化センター多目的室で講演会を開催しました。
 講師は、小牧市を中心に入所施設やグループホームを経営する川崎氏。障がいのある人が、身近な地域で生活するということについて、「障がいのある人も自分のことは自分で決めて、私たちと同じあたりまえの生活を送る権利をもつ人。地域のグループホームは、その権利を保障する住まい。ぜひ大口町にも建設を。」と強調しました。
 グループホームとは、軒家やアパート等で、2名~10名の障がいのある人が、世話人のきめ細かい援助を受けながら共同生活を送る住まいの場です。
 親の会では、有志会員が平成21年から勉強会を始め、現在はグループホーム建設促進会を組織し、建設に向けて関係機関への働きかけを行っています。
 同時に、親の会が民家を借り上げ、障がいのある人たちが共同生活を体験する取り組みも、昨年から始めています。
 今回の講演会には、大口町議会議員の方々をはじめ、民生委員、地域の団体、住民の皆様等、81名の方が出席。大口町でグループホームを建設する場合の具体的な課題や、川崎氏の経営裏話にうなずきながら、熱心にメモを取る姿が見られました。
 障がいのある人の権利を保障し、一人ひとりが、豊かな生活を送れる町へグループホーム建設は、福祉のまちづくりとして、大口町の皆で考えていきたいと思います。



共同生活を体験できる「あんちゃんの家」

平成27年10月~12月分

心配ごと相談所開設日程

●母子自立支援相談(第1水曜日)

経済問題、就労、進学、各種手続き等に関するひとり親家庭のための相談。女性の母子自立支援員が対応します。*予約優先

●女性相談(第1・3水曜日)

家庭、離婚、人間関係、介護、子育て、DV等に関する女性のための相談。女性相談員が対応します。*予約優先

内容 月	母子自立支援相談 女性相談 10:00~15:30	女性相談 10:00~15:30
10月	7日(水)	21日(水)
11月	4日(水)	18日(水)
12月	2日(水)	16日(水)

●高齢者・障がい者の弁護士相談 (原則第4水曜日 *一部変更あり)

ご高齢の方、障がいをお持ちの方やそのご家族が安心して暮らしていくために、弁護士が身近な心配ごとの相談にのります。(※12月16日は原則週の水曜日から日程変更になっています)

内容 月	高齢者・障がい者の 弁護士相談 13:30~16:30
10月	28日(水)
11月	25日(水)
12月	16日(水)*

※弁護士相談は 完全予約制です

相談時間はおおむね30分間ですので、あらかじめ相談内容をまとめてきてください。

予約受付: 社会福祉協議会 電話 94-0060

善意だより

社会福祉に役立ててほしいと、大口町社会福祉協議会にあたたかい寄付・寄贈が寄せられました。厚くお礼申し上げますとともにご報告します。順不同(6月1日~9月7日取扱い分)

ダンスサークル大口 吉川 弘雄 様 42,000円
 下小口盆踊実行委員会 様 20,840円
 福玉精穀倉庫株式会社 様 かしめん 300食
 株式会社東海理化 様 丼カップ 400個
 匿名希望 タオル33枚、バスタオル6枚
 吉田 様 敬老祝い品として
 プリザーブドフラワー
 アレンジメント 40個
 (大口社協デイサービスのお年寄りへ)



赤い羽根共同募金配分金事業

重度身体障がい者 日帰り旅行 参加者募集



- 日時** 10月27日(火)
- 集合場所** 大口町健康文化センター
- 行き先** 徳川園と名古屋港水族館
- 対象者** 身体障害者手帳1級・2級をお持ちの方と介助者(内部疾患の方を除く)
- 交通手段** 大型リフト付き観光バス(車いすをご利用の方も安心してお出かけいただけます)
- 募集定員** 25名(定員になり次第締め切ります)
- 参加費** 3,000円
- 申込み** 平成27年10月1日(木) 午前9時から 窓口・電話で受け付けます。
- 申込み先** 社会福祉協議会 電話 94-0060

傾聴ボランティアだんぼ ボランティア募集

相手の気持ちを尊重しながらお話を聴く、傾聴ボランティアを募集しています。

特別な技術は不要、自分自身も癒されるボランティア活動です。ご興味のある方は傾聴サロンへぜひどうぞ。



お茶を飲みながらお話しする傾聴サロン

傾聴サロン 笑桜会(わらおうかい)

- 日時** 毎月第3火曜日 午後1時から午後3時
- 場所** 老人福祉センター憩い処「さくら屋」
- 問合せ** 社会福祉協議会 94-0060

西尾張ブロック つなごう きずこう ボランティアの力 ボランティアフェスティバル 開催のご案内 先着800名に粗品進呈!どなたでも

14市町村のボランティアと社協が合同で、毎年開催しているフェスティバル。今年は、扶桑町が会場です。講演会やボランティア紹介、福祉施設出店コーナー、サロン、小さなお子様楽しめる催しもあり!



- 日時** 11月29日(日) 午前10時から午後3時
- 場所** 扶桑町文化会館(扶桑町大字高雄字福塚200)
扶桑町中央公民館(扶桑町大字高木字稲葉63)
- 主催** 平成27年度西尾張ブロックボランティアフェスティバル推進委員会、西尾張ブロック14市町村社会福祉協議会
- 問合せ** 社会福祉協議会 94-0060